

令和4年度 厚木市と市内5大学との 連携計画事業

	連携の類型	件数
1	委員会等の委員（※附属機関等除く）	5
2	学習講座等に対する協力 ① 市の講座に対する協力 ② 大学の講座に対する協力	9 (6) (3)
3	学生によるボランティア	6
4	事業に対する協力 ① 市の事業に対する協力 ② 大学の事業に対する協力	21 (15) (6)
5	研究に対する補助・協力	1
合計		42
※令和4年度新規事業数		5

1 委員会等の委員

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
1	厚木市友好交流委員会	市内大学関係者に委員として参加していただき、厚木市の国際交流事業に大学の意見を反映するとともに、大学との協働による事業を展開する。	友好都市等との交流、国際理解の促進、国際平和に貢献できる諸事業を推進する。	H13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川工科大学基礎・教養教育センター 大木 富教授 ・松蔭大学 コミュニケーション文化学部 異文化コミュニケーション学科 高橋 敏哉教授 ・湘北短期大学 グローバルコミュニケーションセンター副センター長 山形 俊之教授 ・東京工芸大学 海老澤 模奈人教授 ・東京農業大学 農学部 野村 こう教授 	—	市内大学関係者に委員として参加してもらうことにより、厚木市の国際交流事業に大学の意見を反映するとともに、大学との協働による事業を展開するために必要である。	1_委員会等の委員		企画政策課
2	松川サク工業振興基金事業	市内工業系大学の優秀卒業生に松川サク工業賞の授与を行う。	名誉市民の故松川サク氏の遺志による寄附を基に、次世代の人材の育成し、工業の発展を図ることを目的とする。	S63年度	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川工科大学 ・湘北短期大学 ・東京工芸大学 	400	将来の工業発展及び科学心の高揚が図られる。	1_委員会等の委員		産業振興課
3	厚木市立小鮎公民館運営委員会	公民館の運営と各事業の推進にあたる委員会。年3回程度実施、委員として関与いただく。	厚木市立小鮎公民館の適正な運営と、各種事業を着実に推進し「元気で活力ある小鮎地区」の実現を目指すことを目的に、小鮎地区の学校の代表者・団体等で構成された公民館運営委員会を開催している。	H13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・東京工芸大学 職員1人 	—	継続的に小鮎公民館区内の学校・団体の方の意見をいただくことで、よりよい公民館運営につながる。	1_委員会等の委員		小鮎公民館

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
4	小鮎公民館学級・講座 開設委員会	地域住民の教養の向上や健康増進、情操の純化を図るため、開設委員会委員として関与いただく。	地区内の大学関係者に委員として参加してもらい、様々な意見を取り入れていただく。	H13年度	・東京工芸大学 職員1人	—	継続的に小鮎公民館区内の学校・団体の方の意見をいただくことで、地域住民のニーズを的確にとらえた学級講座を実施していくことにつながる。	1_委員会等の委員		小鮎公民館
5	厚木市・大学図書館 相互利用連絡会	相互利用に関する実務担当者をもって組織し、相互利用を円滑に推進するための連絡会を開催する。 (平均年1回開催)	大学図書館及び中央図書館の実務担当者が図書館の相互利用を円滑に推進するため、貸出しの事務についての確認や協議を行う。	H13年度	令和4年6月8日付書面による開催で実施 ・神奈川工科大学 ・松蔭大学 ・湘北短期大学 ・東京工芸大学 ・東京農業大学	—	厚木市内の大学図書館と厚木市立中央図書館との相互利用に関する協定書」で設置が規定されており、「厚木市立中央図書館所蔵資料の大学図書館への貸出しに関する取扱要綱」で、定めのない事項については連絡会で協議することになっている。各図書館の実務担当者が実際に顔を合わせ、意見や情報交換をすることができる唯一の場である。	1_委員会等の委員	開催方法について、5大学図書館に希望を聞いたところ、全館が「書面開催」を希望したため、「書面開催」とした。	中央図書館

2-① 学習講座（市の講座に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
1	あつぎ協働大学開設事業	市民の高い学習意欲に応えるため、大学の特色に合わせた「教養科目」、厚木市の概要等について学ぶ「協働科目」、市内企業と連携した、企業の取り組みなどについて学ぶ「企業科目」を実施する。また、講義で得た学びを有効活用し、自主的な市民活動へつなげることを目的に、受講修了者を対象に相互の交流促進や活動を始めるための実践的な知識・情報を習得する「実践科目」を実施する。	市民と行政の協働によるまちづくりを実現するため、学習機会を提供し、及び専門的な学習要求に応えらるとともに、まちづくり等の活動を主体的に行うことができる人材を育成する。	H20年度	東京工芸大学：森山剛、茂野賢治、小田珠生、北島良三、佐藤純 神奈川工科大学：クライソントロンナムチャイ、三枝亮、三栖貴行、脇田敏裕、河原崎徳之 湘北短期大学：二見総一郎、小笠原大輔、大川なつた、鈴木孔明、金澤良晃 松蔭大学：高橋敏哉、金澤秀嗣、松浦広明、大脇淳子、水本深喜 東京農業大学：杉山立志、庫本高志、丹羽克昌、谷口亜樹子、小松憲治	1,377	多様化・高度化している市民の生涯学習ニーズに応じており、受講者から高い満足度を獲得している。	2-1_市の講座に対する協力	オンライン開催	文化生涯学習課
2	あつぎ協働大学特別講座	小中学生を対象に大学での研究にかかわる知識、技能、技術を講座として開催する。	市内5大学との協働・連携を通して、小中学生に知識、技能、技術を体験活動させることで、大学に対する興味関心を高め、学びの楽しさを知ってもらう。	H24年度	湘北短期大学：鈴木孔明、三塚由美子 松蔭大学：野川智子、小野和 東京農業大学：森元真理、土田あさみ	1,377	多様化・高度化している市民の生涯学習ニーズに応じており、受講者から高い満足度を獲得している。	2-1_市の講座に対する協力		文化生涯学習課
3	みどりの育成事業 (みどりの知識を広める事業)	生涯学習の一環として、市民を対象に緑に関する講座を開講する。	専門的な知識を有する講師を招き、「緑の講座」を開催することで、緑の育成に関する意識の高揚を図る。	S59年度	東京農業大学 ・農学部 デザイン農学科 助教 御手洗 洋蔵 氏 ・農学部 生物資源開発学科 准教授 三井 裕樹 氏 ・農学部 農学科 助教 吉田 実花 氏 ・農学部 伊勢原農場 教授 石川 一憲 氏 参加者 91人	168	緑にふれあい、親しみ、緑を理解し、育てていくことが求められている中で、緑の講座を開設することにより、緑に対する認識を深めるとともに、市民参加の緑豊かなまちづくりの推進を図る。	2-1_市の講座に対する協力		公園緑地課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性和効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
4	学級講座「おもしろ理科実験」	東京工芸大学の協力により、小鮎公民館学級講座として夏休み体験教室を開講する。	夏休みにおける子どもたちへの科学体験の機会を提供する。	H28年度	・東京工芸大学 教職員3人	—	高齢者を対象とした講座として実施。高齢者のニーズに合った講座を提供することにより、高齢期に対応する知識の修得や仲間づくりの場に貢献している。	2-1_市の講座 に対する協力		小鮎公民館
5	学級講座「生きがい教室」	松蔭大学が実施している出前講座を活用し、小鮎公民館学級講座として開催する。	転倒を予防するために家でできる有効な運動や食事、日常での注意点を解説する	H31年度	・松蔭大学 教職員1人	—	専門家の視点からの講座を提供することにより、腰痛の予防・改善に貢献している。。	2-1_市の講座 に対する協力		小鮎公民館
6	学級講座開催事業 「ネイチャー教室」	東京農業大学の学生が指導者になり、小学生を対象にネイチャーゲームを実施する。	東京農業大学の学生と地域の小学生が、ネイチャーゲーム等を通じて交流を図る。	H15年度	東京農業大学自然教育研究会 ネイチャーズクラブ 15人	55	大学生と小学生という異なる世代間の交流を通じて、小学生に対し自然への学習の機会を設けるとともに、豊かな社会性を育むことに貢献している。	2-1_市の講座 に対する協力		愛甲公民館

2-② 学習講座（大学の講座に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
1	環境普及啓発講座	神奈川工科大学の授業「Stop the CO2 入門」の年度当初の講義にあたり、「ごみの正しい出し方」及び地球温暖化対策講座についての職員の派遣が依頼され、講義を行う。	「Stop the CO2入門」の講義を選択した学生に、ごみと地球温暖化対策の講義を行い環境意識を高め、授業を受講する学生の目的意識を高める。	H21年度	神奈川工科大学 今井 健一郎 准教授 受講者 60人	—	「Stop the CO2入門」の授業を選択した学生にごみと地球温暖化対策の講義を行い環境意識を高め、授業を受講する学生の目的意識を高めることが出来る。	2-2_大学の講座に対する協力		環境政策課
2	松蔭大学公開講義	松蔭大学で外部講師を招き実施する講座「地球温暖化の現状と小牧CCS実証試験について」を市民向けに一般公開するものに対して市が後援して周知等を行う。	市のゼロカーボンシティ宣言と関連して、環境教育を推進するために実施する。	R4年度	松蔭大学 仲伯維 准教授	—	市内大学がカーボンニュートラルに対して積極的に取り組んでいることを市民にPRできる。	2-2_大学の講座に対する協力		環境政策課
3	フレッシュマンセミナー	東京農業大学からの依頼で同校の新入生必修科目である「フレッシュマンセミナー」に職員を派遣し、「若者の消費者トラブル未然防止とセーフコミュニティ」についての講義を行う。	東京農業大学の新生に、消費者トラブル及びセーフコミュニティについて講義を行い学生の消費者トラブルの未然防止とセーフコミュニティ活動への参加意欲を高める。	H24年度	東京農業大学 学生 583名	—	東京農業大学の新生に、消費者トラブル及びセーフコミュニティについて講義を行い学生の消費者トラブルの未然防止とセーフコミュニティ活動への参加意欲を高めることができる。	2-2_大学の講座に対する協力		セーフコミュニティ くらし安全課

3 学生ボランティア

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
1	学生等によるにぎわいアドベンチャー隊事業	厚木市及び「厚木市まちなか活性化プロジェクト」が学生等と協働し、中心市街地のにぎわい創出につながる事業を企画開催する。	本厚木駅周辺における中心市街地のにぎわい創出と回遊性の向上を図る。	H20年度	<ul style="list-style-type: none"> ・松蔭大学20人 ・東京農業大学4人 ・神奈川工科大学5人 ・東京工芸大学3人 ・湘北短期大学13人 	1,481	厚木市まちなか活性化プロジェクトが実施する「にぎわいアドベンチャー隊事業」に参画するにぎわいアドベンチャー隊員連絡会を組織することにより、学生に対して市政情報等の発信や顧客対応などのマーケティング教育の実践の場を提供することに寄与している。	3_学生ボランティア		商業にぎわい課
2	青少年非行防止活動事業（第34回心と街のグリーン作戦）	青少年の健全育成啓発活動として本厚木駅周辺において薬物乱用防止並びに非行防止活動キャンペーンと市街地周辺の環境美化活動を実施する。参加大学生及び高校生の一部は、実行委員として関与いただく。	青少年自らが美化活動及び啓発活動を実施し、青少年を取り巻く環境の美化と喫煙飲酒薬物乱用防止・非行防止を広く市民に訴える。	H1年度	依頼先 東京農業大学 湘北短期大学 松蔭大学 東京工芸大学 神奈川工科大学	10,861	環境美化活動、啓発活動の実施により青少年の健全育成を推進することができる。	3_学生ボランティア	新型コロナウイルス感染症の影響により、内容及び規模を縮小して実施した。	青少年教育相談センター

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
3	つかみどり大会	玉川に生簀を仮設し、小学生を対象とした、鮎や鱒のつかみどり大会を実施する。	川に親しむシーズンをとらえ、当地区住民が自然と親しみながら住民同士のふれあいを促進する。	H29年度	・東京農業大学 学生5人	—	大会の円滑な運営（参加者受付補助、会場整理等）に大いに貢献している。 小学生が運営に携わる大学生の姿を見て「ボランティア」精神が育まれることに寄与。	3_学生ボランティア		愛甲公民館
4	あつぎの魅力創造発信事業	住みたい・働きたい・訪れたいと思える魅力あるまちづくりに向けた事業及びあつぎの魅力を創造し全国に発信する事業を実施する。	20歳代を中心とした若い世代の定住促進・転出抑制を図る。	平成28年度	市内5大学生10人（各大学2人ずつ）	7,000	大学生の参加を得ることで、事業の趣旨である20歳代の定住促進を図る目的に寄与することができる。	3_学生ボランティア		企画政策課
5	野外彫刻造形展開催事業	彫刻・造形作家やグループなどの作品展示を行なう。また、参加型の催しとして木の実のアート教室などのワークショップを行なう。	文化芸術の発表の場と鑑賞の場を提供することにより、市民の自発的な文化活動の推進を図る。	H3年度	市内5大学にて学生ボランティアスタッフを募集予定。	432	文化芸術活動の発表と鑑賞の機会を提供し、市民の芸術文化の創造と育成を図る。また、公園での開催により、施設利用者など家族連れで来園された方が、気軽に作品に触れる機会や制作する機会を提供することができる。	3_学生ボランティア		文化生涯学習課
6	市民芸術祭開催事業	クラシック音楽やミュージカルなどの舞台芸術を、市民参加により制作する。	文化芸術の発表の場と鑑賞の場を提供することにより、市民の自発的な文化芸術活動の推進を図る。	H18年度	市内5大学にて学生ボランティアスタッフを募集予定。	2350	市民参加型の舞台公演を開催し、市民が身近に文化芸術を体験し、鑑賞できる機会を提供することで、文化芸術の振興が図られる。	3_学生ボランティア		文化生涯学習課

4-① 事業に対する協力（市の事業に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
1	厚木市職員採用試験	東京農業大学厚木キャンパスにおいて、厚木市職員採用試験を実施する。	厚木市人材育成基本方針に基づき、幅広い視野と感性を持った、意欲と情熱のある人材を確保する。	H27年度	厚木市職員を志す学生・社会人等	—	都市間競争が進む中、厚木市が将来にわたって持続的な発展を続けていくためには、意欲と情熱を持った人材を確保する必要がある。	4-1_市の事業に対する協力	※事業費については、会場使用料及びバス借上げ料	職員課
2	行政コンテンツ作成事業	デジタルサイネージ、インターネット、SNSなどの映像メディアを活用して配信する行政情報CMを、大学生の豊かな発想力と専門性を生かして作成する。	映像を通じた行政広報の充実を図るとともに豊かなコミュニティの創造を目指す。	H18年度	・神奈川工科大学 情報学部情報メディア学科 福本教授 学生10人程度 ・東京工芸大学 工学部工学科 森山准教授 学生10人程度	308	大学の最新の技術と学生の斬新なアイデアを取り入れ、コンテンツを制作することができる。映像撮影や編集の実践になり、学生の技術向上や発表の場の提供にもつながる。	4-1_市の事業に対する協力		広報課
3	水辺ふれあい事業	準用河川恩曽川にある親水広場を活用し、水質調査及び水生生物調査並びにごみの状況調査を行う。	子どもたちが身近な河川での環境学習に取り組み、環境の実態を把握し、河川を大切にすることを育む。	H19年度	東京農業大学 農学部野生動物学研究室 佐々木剛教授、 野生動物学研究室学生20人	194	専門的知識を持つ大学教授や学生から指導を受けることにより、子どもたちの河川に対する興味が広がり、身近な河川環境保全の大切さを次世代に引き継ぐことができる。	4-1_市の事業に対する協力	新型コロナウイルス感染症対策として、例年合同で実施していた大学の授業とは別で実施する。	河川ふれあい課
4	SEL教育基金事業 (おもしろ理科教室)	厚木市SEL教育基金条例に基づき、確かな学力を身に付けた心豊かで健康な児童及び生徒を育成するために教室を実施する。	本市に事業所を置く最先端の科学技術を有する企業及び理工系大学との連携・協力を通じて、子どもたちに、豊かな活動を体験させることで、科学等への興味・関心を高め、理科好きの厚木の子を育成する。	H20年度	・神奈川工科大学 ・東京工芸大学 ・東京農業大学 各大学から数名参加	1,436	子どもたちが最先端の科学技術に触れ、豊かな体験活動を行うことを通じて、科学等に対する興味・関心を高めることができる。	4-1_市の事業に対する協力		教育指導課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
5	大学図書館・公民館図書室等ネットワーク事業	市立図書館所蔵資料の大学図書館への貸出（学生・職員の利用）や市民の大学図書館閲覧利用、市立図書館を經由して大学図書館所蔵資料を市民に貸出する。	大学図書館との相互協力により、市内大学に通う学生・教職員に対する図書館サービスの充実を図るとともに、市民も大学図書館の情報力を活用することができるようにする。	H13年度	・神奈川工科大学 ・松蔭大学 ・湘北短期大学 ・東京工芸大学 ・東京農業大学	36638	大学の学生・教職員の利便性を維持し、市民が大学図書館の専門情報をりようするために、必要な事業である。また、大学図書館の地域開放を促す効果があると考えられる。	4-1_市の事業 に対する協力	ルス感染拡大防止のため、学外利用者の入館制限を行っているが、4月から東京工芸大学、東京農業大学、9月から神奈川工科大学が利用を再開。	中央図書館
6	学生消防団活動認証制度	厚木市消防団に入団している大学生、大学院生又は専門学校生が、消防団員として真摯かつ継続的に消防団活動に取り組み、顕著な実績を収め、地域社会へ多大なる貢献をした功績について、厚木市がその功績を認証する。	厚木市消防団に入団している大学生、大学院生又は専門学校生が、「大学生等消防団員として、地域社会へ貢献をした功績を厚木市が認証し、就職活動を支援する」ことを目的とする。	H29年度	消防団に在団する学生	—	学生の就職活動を支援し、学生消防団員のメリットを付与することにより、消防団員の確保及び活動への意欲向上が図られる。	4-1_市の事業 に対する協力		消防総務課
7	本厚木駅前東口地下道活性化事業	市内商店会や大型店舗、企業等の代表者で構成する「本厚木駅前東口地下道活性化実行委員会」が主体となり、市街地の回遊性の向上やにぎわいの創出を図る。	イベントの実施により、大人から子どもまで楽しめる空間を創出するとともに、日常から地下道のイメージアップを図ることにより、地下道の活性化を図る。	H27年度 (大学の協力はH30年度から)	東京工芸大学ほか	2,000	大学の参加により、イベントが充実したものになると共に、大学を知ってもらう場にもなり、地下道活性化の活性化を推進することができる。	4-1_市の事業 に対する協力	CHiKaフェスは実施したが、大学のイベント参加については見合わせた	企画政策課
8	参議院議員通常選挙期日前投票所	令和4年7月の参議院議員通常選挙執行に当たり、神奈川工科大学構内に期日前投票所を開設する。 【設置日数 3日間】	平成28年から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを機会に、若い有権者に対して選挙を身近なものと感じてもらい、併せて選挙や政治に関する意識の高揚を図る。	平成28年度	神奈川工科大学 管財課 和田氏 1人 学生 6人（期日前立会人）	356	身近な場所に投票所を設けることで若年層の投票機会の増大につながる。 また、投票立会人や啓発活動を経験することで選挙や政治に対する意識が向上する。	4-1_市の事業 に対する協力	打合せを行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止	選挙管理委員会事務局

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
9	サイエンスウインター2022	子ども科学館が主催するイベントにおいて、来館者を対象とし、市内高校生及び大学生、その他市民団体等が講師となって、実験や工作教室を行う。	市内の大学、高等学校及び市民活動団体との市民協働による、子どもたちの科学や物づくりへの関心を深める機会を創出するとともに、学生を始めとする各出展団体の日ごろの研究成果を発表する場として、開催するも	H26年度	神奈川工科大学 (教員1名、学生スタッフ6名の予定)	—	大学のノウハウを借りることで市民サービスの向上を図るうえで効果的である。	4-1_市の事業に対する協力		青少年課
10	フレイル予防教室「今から始める健幸への道」	フレイル対策が必要と思われる高齢者に対し、専門知識を有する者が作成した運動、栄養、社会参加等のフレイル予防に関する内容の健康教室(4圏域)を実施する。	令和4年度厚木市高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業の一環としてフレイル予防教室を開催し、参加者の運動機能向上を図る。	R3年度	神奈川工科大学 ロボット・メカトロニクス学科 高橋勝美 教授 看護学科 金子直美 教授 地域連携センター長 小川喜道 名誉教授 他	4,087	高齢者に対する運動機能評価等の研究を行っている教授が本事業に携わることにより、独自の測定機器を使用するなど、他にはできない効果的な取り組みを実施することができる。 また、事業の効果としては、参加者の運動機能向上により介護予防及び医療費削減に繋がる。	4-1_市の事業に対する協力	令和5年度以降も事業を継続する予定。 ※神奈川工科大学と調整中。	国保年金課
11	SDGs推進事業	市内事業者や大学、庁内関係課の協力により、SDGsに関するパネル展示や体験コーナーを設けた「あつぎSDGsフェスティバル」を開催する。	来場者にSDGsの取組を広く周知するとともに、SDGsの自分ごと化を図る。	R4年度	神奈川工科大学、湘北短期大学、東京工芸大学、東京農業大学	2,000	国や県は、SDGsの取組を積極的に推進しており、本市においても持続可能な社会の実現に向け、SDGsの取組を推進する必要がある。 「SDGs」という言葉や概念はとかく「分かりにくい」と思われがちであるが、本事業の実施により、SDGsをより身近なものとして捉えていただくとともに、市民相互のつながりを深めるきっかけ	4-1_市の事業に対する協力		企画政策課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
12	子どもプログラミング教室～プログラミングでロボットを動かそう！～	学級講座の事業として、神奈川工科大学の先生と学生を南毛利公民館に招き、地区内小学4～6年生を対象にプログラミング教室を行う。	教室を通じてプログラミングと神奈川工科大学に興味を持ってもらう。	R4年度	神奈川工科大学創造工学部 教授 金井 徳兼 (ほか学生2名(助手))	10	大学の先生や学生と一緒にプログラミングを学習する機会を提供することで、地区内在住の小学生に対し大学での学習への興味関心を広げることができるとともに、専門性の高いプログラミング学習をすることができる。	2-1_市の講座に対する協力		南毛利公民館
13	厚木市カーボンニュートラル推進ネットワーク	市と市内の企業、大学、金融機関等が、分野を超えて相互に連携、協力し「カーボンニュートラルなまちづくり」を進める中心的組織として、「厚木市カーボンニュートラル推進ネットワーク」を設立し、事業の検討、実施、情報の共有を行う。	各参加主体の脱炭素経営と市内のカーボンニュートラルなまちづくりを進める。	R4年度	神奈川工科大学 東京工芸大学 東京農業大学 松蔭大学 湘北短期大学	—	市内の主な主体である大学と連携してカーボンニュートラルに向けて取組を進めることは、学生を始めとした市民に対するPR効果が高い。	4-1_市の事業に対する協力		環境政策課
14	身近な環境エコツアー「農大で生きものさがしをしてみよう」	市内在住の小学生とその保護者が対象。参加者は、東京農業大学にある雑木林で専門的知識を持つ准教授と学生のサポートを受けながら、生きもの探しを行う。また、採集できた生きものは、農大施設内で、学生の解説を交えながら参加者全員で観察する。	市内における生物多様性の豊かさを知ってもらうとともに、その重要性について理解を深めてもらう。	R4年度	東京農業大学	—	参加者に市内の身近にある豊かな自然を実感してもらうとともに、市内大学のPR効果、参加者の親子に向けた説明や対応など学生の成長も促す効果が期待できる。	4-1_市の事業に対する協力		環境政策課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
15	生ごみを肥料として有効活用しよう！	生ごみを堆肥として、草花を含む作物生産に利用する方法を学ぶ。	環境保全に対する意識の啓発と、環境保全のために自らが率先して行動できる人材育成、機会の創出を図る。	R4年度	東京農業大学 平野 繁 准教授	380	環境保全に対する意識の啓発と、環境保全のために自らが率先して行動できる人材育成、機会の創出を図ることができる。	4-1_市の事業に対する協力		環境政策課

4-② 事業協力（大学の事業に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
1	オーストラリア学生交流事業	オーストラリアからの学生が市内大学を訪問し、授業参加や日本文化体験等を通して、国際交流を深める。	湘北短期大学と姉妹提携を行っているオーストラリア ニューカッスル大学の学生が厚木市を訪問し、湘北短期大学学生や厚木市民との交流を図る。	H14年度	湘北短期大学	—	湘北短期大学と姉妹提携を行っているオーストラリアニューカッスル大学の学生が厚木市を訪問し、湘北短期大学学生等が中心となって実施する国際交流を支援することで、未来の国際交流を担う学生同士の交流を活性化させることに寄与している。	4-2_大学の事業に対する協力	ニューカッスル大学から15人の学生が来厚した	企画政策課
2	神奈川工科大学看護学部看護実習生受入れ	神奈川工科大学の学生16名を、市内公立保育所4園にて受入れる。	学生の保育、小児看護への理解を深めるとともに、看護師としての資質向上を図る。	H29	神奈川工科大学看護学生 6月4園16名受入	—	学生は、保育所での保育活動や健康な児童の姿を観察し、認識と理解を深め、心構えや態度を研修し、将来の看護師としての資質を高める。	4-2_大学の事業に対する協力		保育課
3	湘北短期大学保育実習生受入れ	湘北短期大学の学生を、市内公立保育所4園にて受入れる。	学生の保育への理解を深めるとともに、保育士としての資質向上を図る。	H13	湘北短期大学学生（保育学科） 2月4園16名受入予定	—	学生は、保育所での保育活動や健康な児童の姿を観察し、認識と理解を深め、心構えや態度を研修し、将来の保育士としての資質を高める。	4-2_大学の事業に対する協力		保育課
4	湘北短期大学保育ボランティア受入れ	湘北短期大学の学生を、市内公立保育所4園にて受入れる。	学生の保育への理解を深めるとともに、保育士としての資質向上を図る。	H21	湘北短期大学学生（保育学科） 8月～9月4園29名受入	—	学生は、保育活動の観察を通して、認識と理解を深め、心構えや態度を研修し、将来の保育士としての資質を高める。	3_学生ボランティア		保育課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
5	松蔭大学看護学部実習受入れ	老人福祉センター寿荘において、看護学部の臨地実習を受け入れ、学生が寿荘で活動する高齢者と交流する。(老年看護学)	市内大学で看護師を目指す学生の資格の取得に寄与する。	H28年度	令和4年度について、看護学部実習の受入事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止。	—	学生と高齢者との交流支援として寄与できる。	4-2_大学の事業に対する協力	新型コロナウイルス感染症の影響により、中止。	健康長寿推進課
6	神奈川工科大学健康医療科学部実習生受入れ	神奈川工科大学の学生を市立小学校の単独調理場および学校給食センターにて受入れる。	学生の学校給食への理解を深めるとともに、管理栄養士としての資質向上を図る。	H22年度	神奈川工科大学学生（健康医療科学部管理栄養学科）7名	—	大学の必修科目である実地研修を本市で行うことにより、事業目的の達成に寄与することができる。	4-2_大学の事業に対する協力		学校給食課

5 研究に対する補助・協力

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④事業開始年度	⑤参加者 (教授等氏名、学生等)	⑥事業費 (千円)	⑦必要性と効果	⑧協働の形態	⑨備考	⑩課等名
1	防災無線をはじめとするICTを用いた厚木市防災システムのあり方に関する基礎的研究	<ul style="list-style-type: none"> ・実地調査、音響計測 ・アプリケーション開発 ・AI、ICTを活用した情報システムの提案 ・防災放送のリスクマネジメントのための指針制定等 	神奈川工科大学の研究へ、防災行政無線の放送や聞き取り試験など協力する。	令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川工科大学 教授 上田 麻理氏 (准教授) 小川 喜道氏 (工学教育研究推進機構) ・地域連携・貢献センター センター長 ・地域連携災害ケア研究センター 副センター長/幹事 ・地域連携プラットフォーム事業 幹事) <p>ほか</p>	—	屋外・屋内において防災無線が聞こえにくい状況や、難聴者、高齢者等に配慮した防災放送と併用可能な視覚情報を含むAIなどのICTを活用した情報システムの提案を行うことで、災害時における迅速かつ正確な情報提供を行うことが可能となる。	5_大学の研究に対する補助・協力		危機管理課